

# 自閉性障害児における親子関係とその影響要因に関する研究

## —先行研究の概観と今後の方向性—

(中間報告)

神戸大学大学院総合人間科学研究科	山口 正 寛
神戸大学大学院人間発達環境学研究所	山 根 隆 宏
伊丹市立総合教育センター	花 村 香 葉
神戸少年鑑別所	鍋 島 宏 之

## The study of relationship of parent-child with autism disorder and its influential factor: Reviewing recent research and future direction.

Graduate School of Cultural Studies and Human Science, Kobe University: YAMAGUCHI, Masahiro

Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University: YAMANE, Takahiro

Itami-City General Education Center: HANAMURA Kayo

Kobe Juvenile Classification Home: NABESHIMA Hiroyuki

**【キー・ワード】 自閉性障害, 親子関係, 養育者の内在的要因**

**【key words】 autism disorder, parent-child relationship, internal factor of parent**

### はじめに

近年では、一般幼児を対象とした子どもの愛着形成または親子関係に関する知見は豊富であり、それらの要因として養育者側の内在的要因、例えば、後述する養育者側の内的作業モデル(internal working models; IWM) (e.g. Pederson, Gleason, Moran, & Bento, 1998; van IJzendoon, 1995)や共感性(e.g. Fonagy, 2001; Meins, 1997)などが検討されている。そして、これらの変数が養育態度ないし養育行動に影響を与えることによって子どもとの親子関係が形成されていくと考えられている。しかし現在のところ、愛着理論の観点から自閉性障害児(以下、自閉症児)の親子関係を検討した研究は少ない。それはおそらく、自閉性障害の特性として、出生当初から対人関係を結んでいくことに困難があるがゆえ、障害特性そのものが親子関係に与える影響が大きく、障害特性以外の要因を純粋に取り出すことが困難であることが考えられる。しかし、現実には、自閉症児と養育者との関係においても一般幼児と養育者との関係と同様に多様な関係性が認められることは事実である。つまり、親子間の情緒的絆(affectional bonding)は障害の有無に関わらず認められ、少なくとも養育者側の内在的要因が関係性形成に関与していると考えられる。ところが、一般幼児と障害を持つ子どもの親子間の相互作用に関する養育者側の種々の内在的要因の比較検討は現時点においてほとんど行われ

ておらず、このような問題を明らかにすることは、親子が健全な関係性を結んでいくプロセスを明らかにする上で、学術的にも臨床的にも意義のあることと思われる。

以上のことから、本研究では、一般幼児および自閉症児における養育者側の愛着体験や内的表象と子どもの愛着の関連を比較検討することを通して、親子間の相互作用に影響を与えるいくつかの要因について明らかにする。

そこで本中間報告では、本調査に先立って、一般幼児群における養育者の種々の内生的変数と子どもの愛着との関連について検討した研究および、愛着理論に基づいた自閉症児における親子関係に関する先行研究を概観し、親子関係における相互作用に影響を与えるいくつかの要因を整理・検討する。そして、実証的研究に向けた今後の課題と方向性について考察する。

### 一般幼児における愛着関係と養育者の内生的要因

近年では、子どもの愛着形成に寄与する諸要因のなかでも、愛着理論では特に愛着の世代間伝達という観点から、子どもの愛着形成や親子間の相互作用について検討されている。愛着の世代間伝達とは、親世代の愛着体験が子世代にも伝達されることであり、このような愛着の伝達過程には養育者側の愛着に関する体験に基づいた表象が関与していると考えられている。このような表象は愛着理論において IWM と呼ばれている。IWM は、早期養育体験における養育者との相互作用に基づいて形成される自他の表象であり、後の対人関係を規定していく。そして、いくつかの研究からは、養育者の IWM と子どもの愛着行動との間に有意な関連が示されている (e. g. Pederson et al., 1998; van IJzendoon, 1995)。

一方、IWM と同じように早期養育者との相互作用において形成されるものとして、心理化 (mentalization) 能力がある。心理化とは、自己や他者の心の状態について推測することをいい、養育行動における共感性、つまり敏感性 (sensitivity) の基盤となる能力と言える。親子関係における親側の心理化能力を重視する研究者に Fonagy (2001) や Meins (1997) が挙げられるが、彼らによると、養育者の被養育体験が養育者側に心理化能力を育み、その心理化能力に基づいて、対人相互作用が行われるだけでなく、IWM も形成されていくという。Slade, Grienenberg, Bernbach, Levy, & Locker (2005) と Grienenberger, Kelly, & Slade (2005) は、養育者の心理化能力の高さが子どもの愛着の安定性と関連していることを明らかにし、この研究から、実際の子どもへの養育態度が養育者の心理化能力に基づいて行われ、それらが子どもの愛着形成と関連していることが示唆されている。山口 (2009) も養育者の被養育体験や IWM、共感性と子どもとの愛着形成との関連に着目し、一般幼児の親子を対象に、養育者の被養育体験、IWM、共感性と子どもの愛着との関連を検討している。それによると、養育者の被養育体験のみが子どもの愛着と関連していることが明らかにされている。また、養育者の IWM と共感性は子どもの愛着と関連が示されなかったものの、これらの変数が子どもに対する養育態度または養育行動と関与している可能性があると考えられている。

## 自閉症児における養育者との愛着関係

自閉症児はかつて、その障害特性ゆえに、親との愛着関係を形成できないと考えられていた。しかし、近年になり自閉症児の愛着形成が再び注目されるにつれ、その前提は変わりつつあるようである。例えば、Willemsen-Swinkels, Bakermans-Kranenburg, Buitelaar, van IJzendoorn, & van Engeland (2000)は、子どもの愛着の安定性は、自閉症特性よりもむしろ知的レベルの影響が大きいことを示唆している。また、Rutgers, Bakermans-Kranenburg, van IJzendoorn, & van Berckelaer-Onnes (2004)は、自閉症児の愛着に関連する10の先行研究のメタ分析から、自閉症児の愛着の安定性に関連する要因は知的レベルの低さと自閉症症状の重篤さであると結論づけている。

これら自閉症児の愛着研究ではいずれも、障害の深刻さ、知的レベルなどの子ども側の要因にもつばら焦点が当てられている。しかし、これらの研究は母親側の要因をほとんど考慮していないうえに、自閉性障害に由来する特有の行動形態が愛着の不安定性を示す行動と類似している(Capps, Sigman, & Mundy, 1994)ため、自閉症児を対象とした愛着研究では、親子関係や子どもの愛着を妥当に測定しているとは言えない場合がある。すなわち、自閉症児を対象とした従来の愛着や親子関係の研究は、子どもの愛着の不安定性を子どもの障害特性に還元させる結果を示しており、親と子の有機的かつ力動的な関係性に焦点を当てたものとは言えない。したがって、今後は自閉症児の障害特性のみならず、養育者側の内在的要因をも含めた多角的な視点から、自閉症児と養育者間の関係性形成について包括的に検討していくことが必要と思われる。

## 今後の課題と方向性

自閉性障害は生得的な器質性障害であり、はじめにも述べたように、障害そのものが持つ関係性形成への否定的な影響力は無視することはできない。それゆえに、現在愛着の測定法として主流とされている実験的手法や半投影法的手法などを自閉症児に実施したとしても、そこには親子間の関係性の歴史だけではなく、障害特性そのものの影響が多分に反映されていると考えられる。したがって、これらの愛着測度で示されるものを一般群と自閉群において同特質と扱い、単純に比較検討するだけでは、各群における親子間の相互作用や愛着関係を検討する上では不十分と思われる。

このようなことから、今後実施予定の本調査では、一般幼児と自閉症児の親子を対象に、それぞれの群内における愛着の安定性・不安定性を観察的手法または質問紙評定によって、また、養育者のIWMや共感性などの内在的変数を質問紙評定から測定し、各群内における子どもの愛着と養育者の内在的変数との関連を検討する。それに加えて、愛着の安定性・不安定性に対して、養育者側の内在的変数が与える影響について一般幼児と自閉症幼児との間に差異があるかを群間比較を通して検討する予定である。このような研究を通して、養育者が子どもと健全な関係性を結んでいく上で影響を与えうるいくつかの要因について明らかにすることが期待できるとと思われる。

## 引用文献

- Capps, L., Sigman, M., & Mundy, P. (1994). Attachment security in children with autism. *Development and Psychopathology*, **6**, 249-261.
- Fonagy, P. (2001). *Attachment theory and psychoanalysis*. New York: Other Press
- Grienenberger, J. F., Kelly, K., & Slade, A. (2005). Maternal reflective functioning, mother-infant affective communication, and infant attachment: Exploring the link between mental states and observed caregiving behavior in the intergenerational transmission of attachment. *Attachment & human development*, **7**, 299-311.
- Meins, E. (1997). *Security of attachment and the social development of cognition*. East Sussex, UK: Psychology Press.
- Pederson, D. R., Gleason, K. E., Moran, G., & Bento, S. (1998). Maternal attachment representations, maternal sensitivity, and the infant-mother attachment relationship. *Developmental Psychology*, **34**, 925-933.
- Rutgers, A. H., Bakermans-Kranenburg, M. J., van IJzendoorn, M. H., & van Berckelaer-Onnes, I. A. (2004). Autism and attachment: meta-analytic review. *Journal of Child psychology and Psychiatry*, **45**, 1123-1134.
- Slade, A., Grienenberger, J., Bernbach, E., Levy, D., & Locker, A. (2005). Maternal reflective functioning, attachment, and the transmission gap: A preliminary study. *Attachment & human development*, **7**, 283-298.
- van IJzendoorn, M. H. (1995). Adult attachment representations, parental responsiveness, and infant attachment: A meta-analysis on the predictive validity of the Adult Attachment Interview. *Psychological Bulletin*, **117**, 387-403.
- Willemsen-Swinkels, S. H. N., Bakermans-Kranenburg, M. J., Buitelaar, J. K., van IJzendoorn, M. H., & van Engeland, H. (2000). Insecure and disorganized attachment in children with a pervasive developmental disorder: Relationship with social interaction and heart rate. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, **41**, 759-767
- 山口正寛 (2009). 養育者の愛着と子どもの愛着との関連—愛着の世代間伝達という観点からの検討— 日本発達心理学会第20回大会発表論文集, 384.